
血液

S T A R ジョーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

血液

【Nコード】

N8137F

【作者名】

STAR ジョーカー

【あらすじ】

惑星調査隊はエイリアンの襲撃を受けた

惑星調査隊の唯一の生存者である彼は、その恐怖の体験を話し終えること

安堵したのか、ソファーに深く身を沈め長いため息をついた。

惑星調査隊は未知の惑星で、エイリアンの襲撃を受けたのだ。

面談室の室温は自動的に制御されていたが、その隊員は小刻みに震えていた。

私のデスクモニターには、彼の個人情報映し出されていたが、わずか一年ばかりの間で

人はこれほどやつれるものなのだろうか？

モニターの画像と、延長線上にある彼の顔を見比べている私の視線に、彼は気づく様子もない。

空調ファンのかすかな音だけが、室内に響いていた。

室内にいる誰もが、重苦しい空気に、呼吸することもはばかられるように感じていた。

「エイリアンの血液ついて、わかっていたのに、早く気がつけばよ

「かつたんです」

「そういつと彼は頭を抱え込んだ。」

惑星調査隊の科学部門の責任者である彼は、自分を責めていた。

「その状況では、君に責任はないさ、そう悩むな」

「でも、小学生でもすぐに分かることですよ、血液の成分がわかれば」

「酸か」

「そうです、中和させれば済むことなんだ、なぜ最初に気がつかなかったのか」

「そういつと、彼はまた頭を抱え込んだ。」

「しかし土壇場で、強アルカリ弾を間に合わせた君の技術はすごいじゃないか」

「しかし、なんだね、血液が酸（3）ということは、骨は（4）かな？」

私は、重苦しい空気を追い払おうと、オヤジギャグを飛ばしたつもりであったが、さらに冷たい

空気まで追加したようだった。

かすかに彼のマユが動いたようであったが、それは軽蔑の意味でし

かないように思われた。

以外だったのは、彼の後ろに控えめに座っていたエイリアンが、かすかに苦笑していることだ。

わずか一年の間に、ここまで地球の言語を理解するとは、たいした知能だ。

そのグロテスクなエイリアンは

頭を抱え込んでいる彼の肩越しに両腕をまわして、やさしく彼を抱擁しはじめた。

かすかに頭部と思われる部分が赤らんでいるように見える。

室内にいる誰もがその不思議な光景に言葉もなかった。

「体質が中性になって、性別も中性になったということか」

そのエイリアンは、明らかに彼になついていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8137f/>

血液

2010年12月3日14時31分発行